

# 林業関連女性団体の活動を通じた国産材利用拡大についての一考察

No.7 山部 洋士

はじめに

我が国では、森林資源の成熟と「森林・林業再生プラン」に基づく施策により、今後、国産材の供給能力が強化されることが期待されている。これに対して、木材の需要は減少傾向にあり、現状のまま推移すれば、人口の減少によって更に減少することが見込まれる。このような中、我が国の森林・林業の再生を進めるためには、木材の供給体制を整備するのみならず、木材に対する需要を拡大することが不可欠である。（『平成 22 年度 森林・林業白書』より抜粋）

上述のとおり、森林・林業再生のためには、国産材の需要拡大が不可欠である。需要拡大のためには、消費者に対して森林・林業に関する情報を適切に発信し、消費者の理解・関心を深め、生活のあらゆる場面で国産材の利用について考えてもらうことが必要と考えた。

一方、消費者に対する森林・林業の情報発信については、林業関連女性団体が取り組んできている。ここでいう林業関連女性団体とは、「林業女子会」や、「全国林業研究グループ連絡協議会女性会議」（以下、「全林研女性会議」という。）及び「豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・21」（以下、「LN21」という。）などの各団体である。

これらの林業関連女性団体は、森林環境教育などのほか、地元産の木製品の PR 活動や森林・林業関連イベントなども行っていることから、こうした活動の中から、国産材利用拡大のヒント・糸口が得られるのではないかと考え、研究することとした。

## 林業女子会

(2010/10/20 京都新聞記事)



(発行誌『fg』vol.1 表紙)



## 全林研女性会議

(全林研女性会議はつらつ女性交流会の様子)



(発行誌『はつらつ』表紙)



## LN21

(森林セラピーによるメンタルヘルスケア

～全国女性森林フォーラム in やまぐち～の様子)



(LN21 が開発した山の仕事着)



### 第1 研究方法

#### 1 現状把握のための情報収集・調査

- (1) 国産材利用拡大に繋がる効果的な PR 方法、対象などについて、HP 等で公開されている情報や民間が実施した消費に関する調査結果などを収集し、分析・考察した。
- (2) 林業関連女性団体（林業女子会〈@京都、@静岡、@岐阜〉、全林研女性会議及び LN21）の活動内容について、HP 等で公開されている情報や、資料、聞き取りなどにより、調査・比較した。具体的な方法は表 1 のとおり。

表1 調査対象と調査方法・資料等

調査対象	林業女子会			全林研女性会議	LN21
	@京都	@静岡	@岐阜		
調査方法 資料等	・HP(ブログ) ・発行誌『fg』 ・代表及び会 員数名への直 接聴き取り ・代表にメール による質問	・HP(ブログ) ・代表及び会 員数名への 直接聴き取り	・HP(ブログ) ・代表及び会 員数名への 直接聴き取り	・HP ・発行誌『はつら つ』 ・全林研発行『全林 研50年の歩み』 ・代表に直接聴き 取り	・HP ・発行紙『レディ ースネットワー ク・21会報』 ・代表にメールに よる聴き取り

## 2 国産材利用拡大に向けた取り組みの抽出・分析

1の内容から、各団体の国産材利用拡大に向けた取り組みを抽出した後、分析し、考察した。

## 第2 調査結果

### 1 国産材利用拡大に繋がる効果的なPR方法などについて

今後どのようなPR方法が効果的かについて検討するために、『森林資源の循環利用に関する意識・意向調査』、『バイオマス白書2011』等を基に、効果的なPR対象者などを調査し（結果は表2,3のとおり）、以下の5つの要素がわかった。

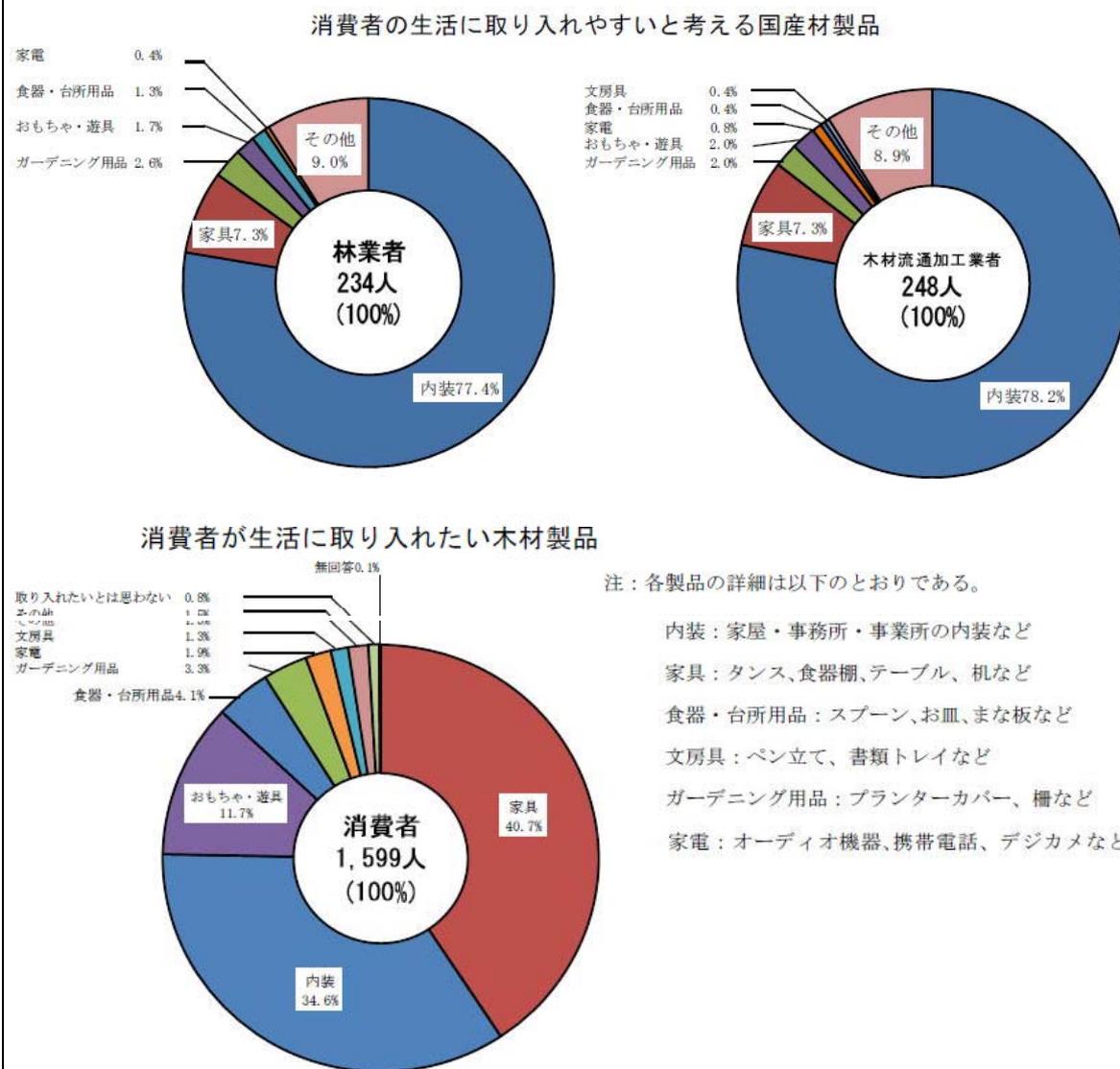
- ・消費者にとっては生活に取り入れやすい国産材製品は家具・内装等であること
- ・国産材を購入してもらうためには、国産材利用のメリットをアピールすると効果的であること
- ・購買決定にあたっては、金額とともに価値の情報が重要であること
- ・家庭で高い購買決定権を持っているのは女性であること
- ・消費者が情報に触れる機会が多いほど、消費者の持つ情報が増えること

これらのことから、国産材の利用拡大を図るためには、女性に対して森林・林業・木材等に関する情報を発信することが有効であると考え、詳細は、「第4 考察」のところで述べる。

表2 「森林資源の循環利用に関する意識・意向調査」(平成22年度 農林水産情報交流ネットワーク事業全国アンケート調査)より関連項目を一部抜粋

**消費者の生活に取り入れやすいと考える国産材製品／消費者が生活に取り入れたい木材製品**

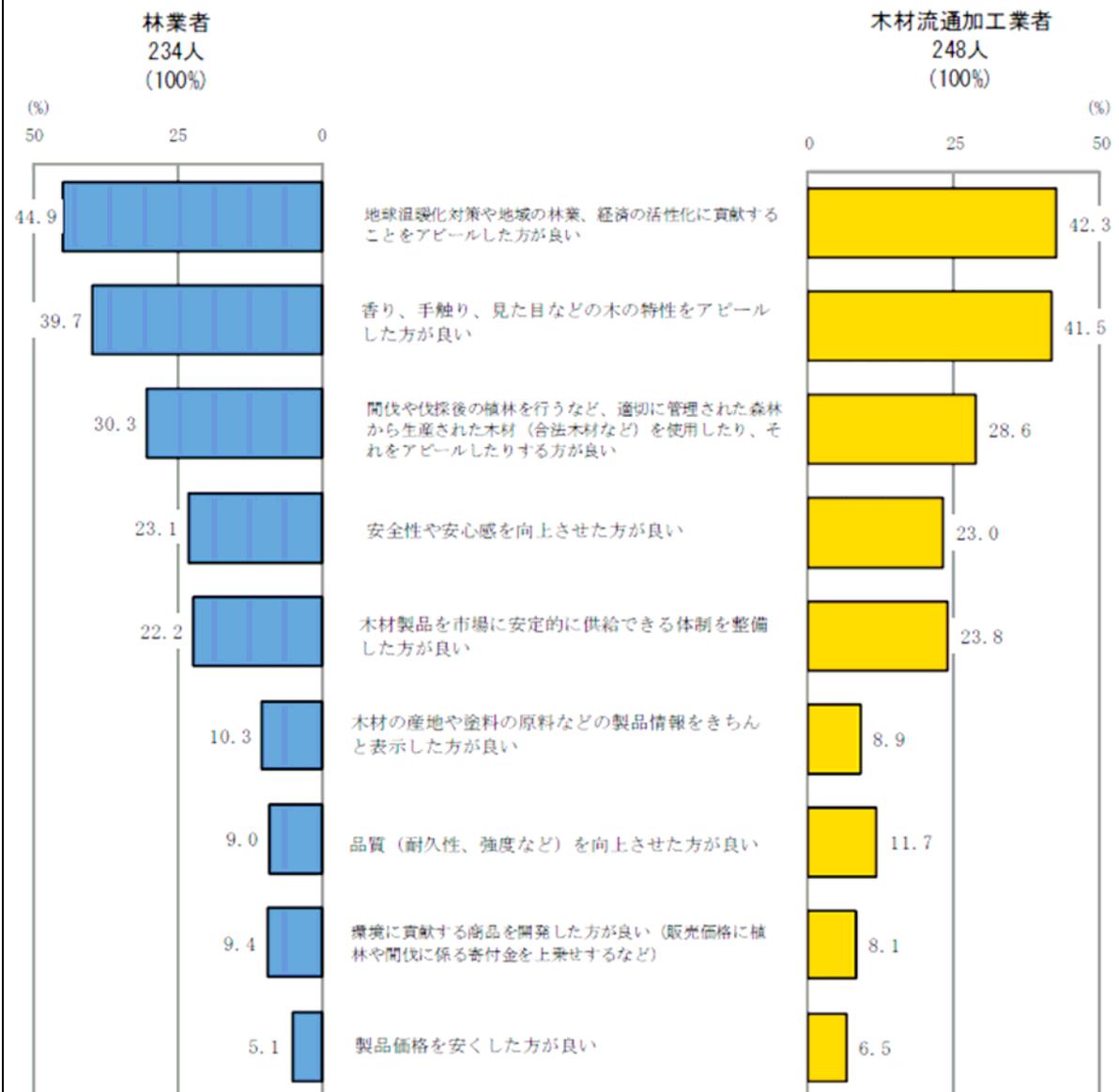
林業者及び木材流通加工業者に、消費者の生活に取り入れやすいと考える国産材製品について尋ねたところ、林業者及び木材流通加工業者のいずれにおいても「内装」が約8割となり、最も高い割合を占めた。一方、消費者に、生活に取り入れたい木材製品について尋ねたところ、「家具」が最も高い割合(40.7%)となり、次いで「内装」(34.6%)、「おもちゃ・遊具」(11.7%)となった



## 消費者に国産材製品を購入してもらうために必要と考える改善点

消費者に国産材製品を購入してもらうために必要と考える改善点について、林業者及び木材流通加工業者に尋ねたところ、いずれにおいても、「地球温暖化対策や地域の林業、経済の活性化に貢献することをアピールした方が良い」及び「香り、手触り、見た目などの木の特性をアピールした方が良い」と回答した割合が約4割と高く、次いで「間伐や伐採後の植林を行うなど、適切に管理された森林から生産された木材（合法木材など）を使用したり、それをアピールしたりする方が良い」が約3割、「安全性や安心感を向上させた方が良い」及び「木材製品を市場に安定的に供給できる体制を整備した方が良い」と回答した割合が約2割となった

消費者に国産材製品を購入してもらうために必要と考える改善点（複数回答）



## 木材製品、材木の販売促進のために必要と考える行政サポート

木材製品、材木の販売促進のために必要と考える行政サポートについて尋ねたところ、林業者及び木材流通加工業者のいずれにおいても、「行政における木材の積極的な利用（公共建築物など）」が最も高い割合（林業者：65.4%、木材流通加工業者：72.6%）となり、次いで「官民一体となった広報活動・普及啓発活動」（林業者：42.7%、木材流通加工業者：45.2%）となった。

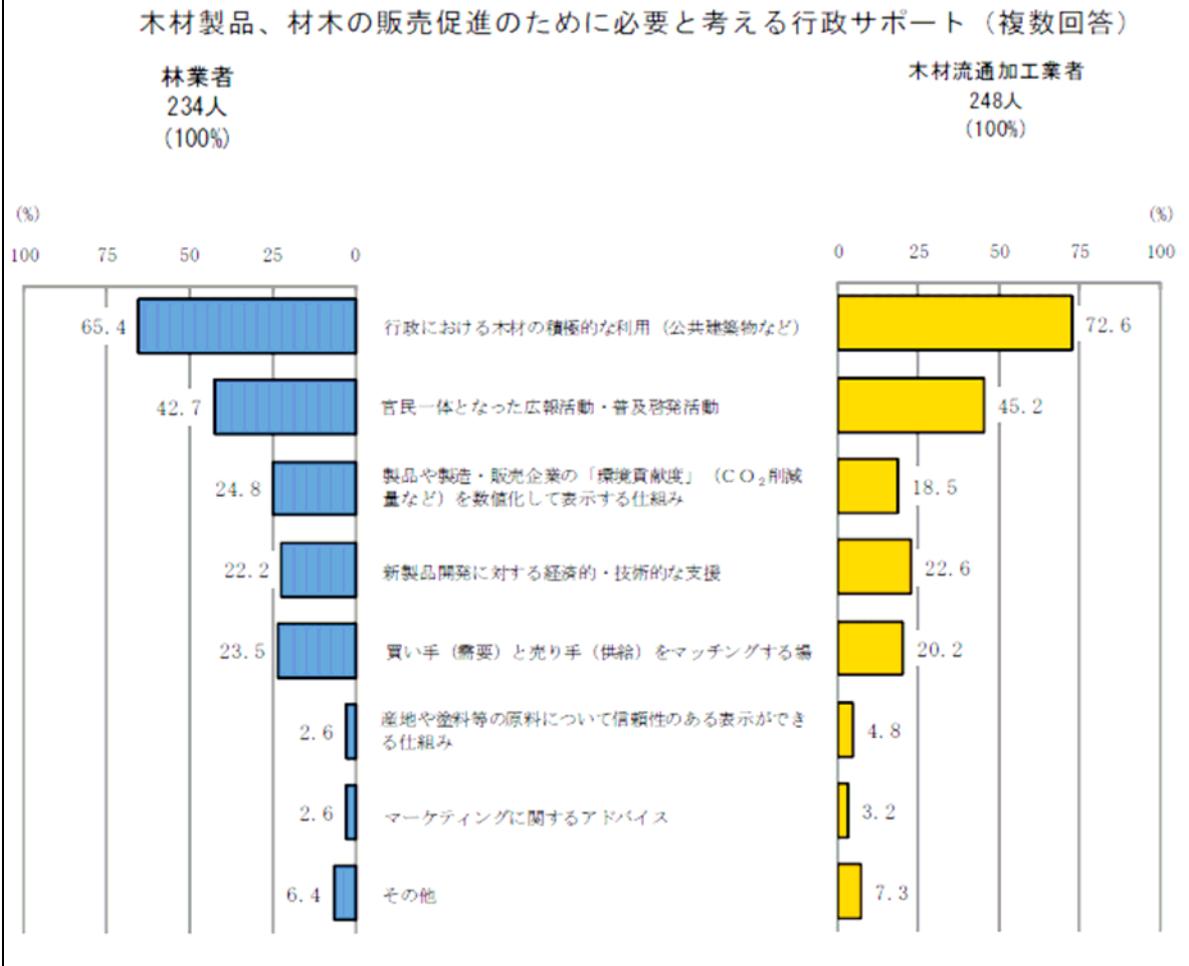


表3 『バイオマス白書 2011』 から読み取ったこと

### 最終ユーザーからの視点

- ・消費者は価値の説明があり、納得すれば買っている
- ・家庭における購買決定権の7割から9割は、女性が持っている
- ・ほとんどの消費者（施主）にとっては、なぜ住宅に国産材を使うのかわからない
- ・マーケティングでは頻度、強度、継続度が重要で、顧客の情報量が増えていく
- ・情報があることで消費者は学べ、ローカルな仲間うちの口コミも、購入する上で重要である

## 2 林業関連女性団体について

### (1) 林業女子会について

林業女子会については、HPを基にした調査と活動内容などの聴き取り調査を行った。調査した各項目についてまとめたものが表4である。

## ア 団体について

「林業女子会」は、文字通り、“林業や森、木”が好きな女子（林業女子）がわいわいと集まっている任意団体で、サークルのような感覚で活動している。

## イ 構成員について

学生、森林組合職員、公務員、建築士、一般社会人などが構成員で、各自仕事や趣味、あるいは生活の一部で、何らかの形で森林・林業に関わっている女性である。

## ウ 発足の経緯について

現在活動中の3団体からの聴き取りをまとめると、発足は、①会を発足したいと思う有志が友人等に声を掛け、②有志とその友人等が、林業系の団体や林業家の女性に声を掛け、活動に賛同する者を増やし会を結成している。会の結成後は、活動の参加者や活動を知った人の中から、賛同する者が会員となっている。

## エ 目標や活動について

最初の林業女子会は2010年に京都で生まれたが、現在、静岡に「林業女子会@静岡」が、また、岐阜に「林業女子会@岐阜」が発足し、それぞれ目標を掲げ地域の林業を大切にしながら、独自のスタイルで活動を展開している。3女子会に共通するコンセプトは「女子から女子に、林業の魅力を伝えたい!」というものであり、まず自分たちが楽しみながら、都会の女子に森林や木材、森の恵みの魅力を知ってもらうことを目指している。特に、イベントの参加資格を女性限定とし、女性が参加しやすいように工夫している。さらに、3つの林業女子会同士の交流もあり、普段はインターネットを介して情報交換をし、お互いのイベントに参加したり、林業系の行事で落ちあったりしている。

その結果、現在は林業女子会が存在しない地域でも「林業女子会をつくりたい!」という声が上がっている。

## オ 聴き取りなどで特に印象的だったもの

林業女子会の機能として、林業女子同士がつながる場としての機能がある。会員の中には林業関連団体や林業系の職場でそれぞれ熱心に仕事やボランティアなどで活動していたが、林業女子会ができるまでは顔を合わせたことがなかった人も多くいる。

会員が「女子」というキーワードで結びつき、林業女子会の活動以外にも、情報交換や見学などの企画を通じて、友人関係となっていくなどのケースも生まれている。特に、職業として林業に従事している会員からは、「職場では同世代・同性が少なく、話し相手がなく淋しい思いをしていた」「林業界で活発に活動する女性に会えて良かった」というような声も聞かれている。

「横のつながりができたことが、新たな可能性につながっていると思う」と、@京都の代表は語っている。

表4 林業女子会調査まとめ

対象 項目	林業女子会 @京都	林業女子会 @静岡	林業女子会 @岐阜
発足	22年7月24日	23年6月26日	23年8月8日
聴き取り日	23年10月22日	23年10月1日	23年11月3日
代表	中立的な立場を意識して学生が代表を務めている。		

対象 項目	林業女子会 @京都	林業女子会 @静岡	林業女子会 @岐阜
構成員	学生、森林組合、行政、 <u>建築士</u> 、薪・ペレットユーザー、 <u>一般社会人</u> 他	学生、行政、森林組合、 <u>木工作家</u> 、 <u>建築士</u> 、 <u>デザイナー</u> 他	学生、行政、森林組合、 <u>林業家</u> 他
発足の経緯	<u>林業を活性化させたい思い</u> と、森ガールや山ガールの次は林業女子会ではないかという発想から立ち上げ @京都としたのは、全国に同じような団体が出来て欲しいという思いから	静岡の林業を応援する目的で、 <u>女子会のようなサークルがあったらいいな</u> 、 <u>思っていた人たちが集まって結成した</u>	代表が、アカデミーの課題研究として取り組んだ、 <u>林業のイメージアップに繋がるイベントの実施と併せて、@京都を参考にして結成した</u>
周囲の反応など	活動開始後、メディアや林業関連組織からの予想以上の反響があり、驚くとともに、活動への意識がさらに高まった	多くのボランティア団体等から活動への参加やイベント開催等の誘いがあり、対応しきれない状態	地域や団体に好意的に受け入れられている 他の団体からよく活動参加の声がかかる
活動目標など	<u>「女子のチカラで林業を盛り上げたい！」</u> 林業や木材、森林と関わるといいうライフスタイルを提案 林業女子とは、 ①くらしの中で、何らかの形で“ <u>林業を応援するすべての女子</u> ” ②小さなことでも“ <u>実際にアクションを起こす女子</u> ” ③林業のサイクルのように長い視点を持って“ <u>100年先を考えられる、余裕のある女子</u> ” そのような女子を増やしたい	<u>産業としての林業を応援したい</u> 1、 <u>林業のことをもっと知る</u> 育てるところだけでなく、製品になるまでのことを、そして、女子ならではの目で新しい林業の魅力を見つける 2、 <u>街の女子に、木の良さをアピールし、林業に関心をもってもらう</u> 3、 <u>林業関係のイベントや勉強会情報を積極的に発信</u> 4、 <u>林業にかかわる民間企業とのコラボ</u>	<u>多くの人に林業の魅力を伝える</u> 1. <u>林業に触れてもらう時間をふやす</u> 2. <u>林業は幅広い産業であることを伝える</u> →都会だけでなく山村の若者にも川上から川下までの林業を伝え、少しでも興味を持ってもらいたい 3. <u>林業と女子を結びつける</u> →今実際に働いている林業女子の声をフリーペーパーやインターネットを利用し多くの人に届ける
具体的活動	・ <u>都会の女子向け林業フリーペーパー発行</u> ・都会にしながら勉強会などを行う「 <u>林業カフェ</u> 」 ・北山杉製品のPR活動 ・間伐体験 ・森林・林業イベント参加 など	・ <u>講師を招いての林業に関する講演会・勉強会</u> ・クロモジで爪楊枝を作りお菓子を食べるイベント ・伐採現場・市場・製材所を廻る林業弾丸ツアー ・森林・林業イベント参加 など	・ <u>小径木伐採・木登り体験・伐採見学など野外で活動する「森女(もによ)カフェ」</u> ・森林・林業イベント参加 ・会の中では、チェーンソーを使った伐採などの機会もある など

対象 項目	林業女子会 @京都	林業女子会 @静岡	林業女子会 @岐阜
今後の活動について	あくまで敷居の低い、気軽な集まりでありたい すでに多くの団体が森林の手入れなどの活動を行っていることもあり、@京都は入口づくり、交流の場づくりをしたい。 「敷居は低く、理想は高く」のスタンスで、フットワーク軽く、自由に楽しく、でも真剣に動く。長く続くムーブメントにしていきたい	他の森林ボランティアとの違いは女性をターゲットにしている点 結成から日が浅く、勉強会が多いが、女性の力を林業につなげるにはどうすればいいか？と考えながら活動している。 企画のおもしろさ重視で、多くの人に参加してもらい、楽しんでもらう工夫を模索しながら県内各地でイベントを実施していきたい	結成から日が浅く、2回のイベントを終えて会員も増え、今後の活動を考えている状態 今は自分たちのスキルアップを目指している メンバーそれぞれにやりたい活動は異なるので、今後の活動は話し合って決めていきたい

## (2) 全林研女性会議について

全林研女性会議については、HPや「全国林業研究グループ連絡協議会」（以下、「全林研」という）が発行している書籍を基にした調査と、活動などについての聴き取り調査を行った。調査した各項目についてまとめたものが表5である。

### ア 団体について

「全林研女性会議」は、全林研に所属する女性会員を組織化した団体である。林業分野での女性団体として、他産業の女性団体とも積極的に交流している。

### イ 具体的活動などについて

優良活動事例を共有するため、「はつらつ女性交流会」などを行っているが、地域によって特性がある、施業技術を自分の地域に合うように改良するなど各会員達が情報を活かすことができる。そのようなときに、全林研女性会議の繋がりが発揮される。

### ウ 発足の経緯について

女性の地位向上、山村地域におけるリーダー養成を目指して研修会などを行い、林業界では初となる女性の全国組織を結成した。全林研女性会議の活動が、林業女性の社会進出や女性のネットワーク化に大きく貢献してきたことがわかる。

### エ 聴き取りなどで特に印象的だったもの

代表は、林業家は自信を持って、一般の者を山に受け入れ、森林環境や木材に触れてもらい、使ってもらい取り組みが必要だと考え活動している。森林には必要なものが全て詰まっているという考え方で、児童に森林の中で活動する機会を提供し、森林・木材への理解・関心を育てることが必要だと考え、児童を対象とした森林環境教育を積極的に実施している。

参考

『全国林業研究グループ連絡協議会』について  
 森林づくりの技術や経営改善、地域づくりや交流など森林・林業にかかわる活動をする自主的なグループとして林業研究グループがあり、1.林業の可能性と夢を求めて活動する。2.美しい森林や自然のもと、家庭と地域の豊かなくらしを追求する。3.市民社会と森林のよりよい関係を求め、行動する。などを掲げ、活動している。全国では、約1500グループ・2万5000人の会員がいる。都道府県ごとに協議会などがあり、その全国組織として全国林業研究グループ連絡協議会（全林研）がある。

表5 全林研女性会議調査内容まとめ

対象 項目	全国林業研究グループ連絡協議会女性会議 (全林研女性会議)
発足	平成9年(平成4年)
聴き取り日	平成24年1月17日
代表	代表1名、副代表2名、理事若干名を総会において選任する。代表は全林研において副代表の職務を、副代表は全林研において理事をそれぞれ兼任する。
構成員	多くが林家・林業関係者 他
発足の経緯	昭和50年の「国際婦人年」、昭和63年「農山漁村婦人の日」等の女性の地位向上に向けた意識の啓発の流れを受け、全林研では一般社団法人全国林業改良普及協会に協力して平成元年から「全国林業女性学習の集い」、平成3年から「全国林業婦人グループリーダー研修会」をそれぞれ開催し、 <u>林業婦人の地位の向上と山村地域におけるリーダーの養成を図り、全林研に所属する女性林業グループや女性会員を組織化し、全林研婦人部を結成した。当初は全林研内の一部会であったが、平成9年から規約を改正し、全林研女性会議として活動している。</u>
周囲の反応	林業分野で望まれていた全国的な女性組織であり「農山漁村女性の日(平成9年まで農山漁村婦人の日)」記念行事の主催団体の一つとして活動するなど、林業分野での女性団体の代表として知られている。 山間地域の女性の林業経営への参画や、女性林業者のネットワーク化等に大きな役割を果たしていることが知られている。 他産業の女性団体などと積極的に交流している 各単位グループは、地域の学校から森林環境教育の実施を依頼されている
活動目標など	この会は全国の森林・林業にかかわる女性相互の連携を密にし、住みよい地域社会づくりのため農山村女性の地位向上とグループの活性化を図り、緑豊かな国土を守ることを目的とする

対象 項目	全国林業研究グループ連絡協議会女性会議 (全林研女性会議)
具体的 活動	<p>(1)全国レベルでの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流会の開催・情報誌の発行による優良活動事例の情報提供</li> <li>・ 行政施策・林研運動方針に女性の声の反映を図る</li> <li>・ 「農山漁村女性(婦人)の日」記念行事主催</li> </ul> <p>(2)各単位グループでの活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森林教室などの普及活動・木工教室などの体験活動(地域・学校などと連携して主に地域の子供を対象に実施している)</li> <li>・ 特用林産物・地元産物の加工・販売(収益を上げる活動として)</li> <li>・ 林家に対する森林整備の働きかけ(林家から林家への働きかけ)</li> <li>・ 森林(竹林)整備の実施</li> <li>・ 林業技術の研究開発                      など</li> </ul> <p>男性林研グループとともに、森林・林業に関する幅広い活動を行っている</p>
今後の 活動に ついて	<p>山のことを山の人だけで考えるのではなく、もっとみんなで考えられるようにしたい。川上から川下まで一緒になって森林や木材のことを考えていけるようにしていきたい。</p> <p>今後、重要なのは教育であると考えている。森林空間を利用して子供達に様々な教育が出来ると考え、児童などを対象にした森林環境教育などを続けていきたい。</p> <p>広く全国から活動実績や報告などを集約・整理し、全国に拡散させていく取り組みを続けていく。活動を継続していくには、無理をせず、地道に継続していくことが大事だが、そのためには人数が多いことが重要になる。幅広く活動の輪を広げたい。</p>

### (3)レディースネットワーク・21(LN21)

LN21 については、HP を基にした調査と、代表へメールにより活動などについて聴き取り調査を行った。調査した各項目についてまとめたものが表 6 である。

#### ア 団体について

「LN21」は、都道府県の女性林業技術職員の全国組織といえる。年 1 回の女性森林フォーラムの開催、森林の市や林業関係のイベントへの参加協力のほか、山村女性の実態調査など、ユニークな活動を続けている。

#### イ 今後の活動について

LN21 では、これまで会員のコネクションをつたってイベントなどを実施してきたが、ソーシャルネットワークサービスなどを通じた情報交換により、活動の幅が広がっている。発足当時は、全国の女性林業技術職員は少数であったが、現在では各都道府県で採用が増え、他団体との交流も広がり、さらに魅力ある活動を目指している。

#### ウ 聴き取りなどで特に印象的だったもの

代表は、「人と森をつなげて、森を身近に感じてもらいたい。森から元気をもらう、森を元気にする」という目標を持ち、活動している。

LN21 は、全国の林業技術職員のネットワークを活かして、全国森林教室事例調査や、森林資源の利活用と「家で使ってみてどうか？」という視点に立った木質ペレットストー

ブ普及の方向性を探る調査などを実施し、結果の一部を公開している。

表 6 LN21 調査結果まとめ

対象 項目	豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・21 (LN21)
発足	平成5年3月9日
聴き取り日	訪問はしていない
代表	会員から選出される役員(一期2年)のうち、2年目の役員から代表選出
構成員	ほとんどが都道府県の林業職員
発足の経緯	平成4年に林野庁主催の研修会で出会った3人の都道府県の女性林業職員が、全国の女性林業技術職員の仲間づくりのため各都道府県主管課長宛に対象者を照会し、全国の女性林業技術職員にネットワークづくりについてのアンケート調査を実施したところ、多くの賛同を得た。そこで、12名の発起人の名前で、全国の女性林業技術職員へネットワークづくりへの参加を呼びかけ、平成5年に会員136人で発足した。
周囲の反応	発足当初から、森林・林業の魅力を発信する活動を行い、注目を集めている。 森林に関するフォーラムやシンポジウムの開催、森林の市などのイベント出展等を通して広く一般に森林・林業の情報を発信し、多くの参加者を迎えている
活動目標など	豊かな森林づくりと皆が明るく楽しく暮らせる農山村の実現のための「アイデアの発信基地」を目指す
具体的活動	・森林フォーラムの開催 ・森林の仕事語るシンポジウムの開催 ・会報の発行・各種情報誌への掲載 ・各種調査研究 など
今後の活動について	・友人の紹介や、ツイッターやフェイスブック等のSNSで色々な人とつながることができたので、それらの繋がりを活かして、今年からは一層おもしろいイベントができそうだと考えている ・実際に会いに行かなくてもつながれるツール(SNSやメーリングリスト)を積極的に使い、コミュニケーションを図る ・より魅力ある活動を実施する ・一般会員が会の活動に直接関われる機会を増やす

### 3 各団体の比較について

#### (1) 各団体の概要の比較

比較した結果(内容は表7のとおり)、各団体は構成員などに違いが見られるが、積極的に他団体との交流やイベントなどを実施している点や林業界に少ない女性のネットワーク化に貢献している点、他の団体と連携した活動を展開している点は共通している。

表7 各団体の概要の比較（全林研女性会議・LN21の会員数は調査時点の概数）

名称	林業女子会	全林研女性会議	LN21
構成員	学生、林業関連、建築家、一般会社員、主婦、他	多くが林家・林業関係者、他	ほとんどが都道府県職員
結成年	2010	1997(1992)	1993
会の目的	・主に都会の女性を対象に、林業・森林の普及活動 ・地元材の良さを知ってもらう ・メンバー間の交流 等	・全国の森林・林業に関わる女性相互の連携 ・農山村女性の地位向上 ・グループ活性化 ・緑豊かな国土を守ること 等	豊かな森林づくりと皆が明るく楽しく暮らせる農山村の実現のための「アイデア発信基地」を目指す
連携する主な団体	企業・ボランティア・林家 等	他産業女性グループ 等	森林林業関連団体・行政 等
主な支援団体	林業系企業・団体 等	全林協・全林研・森林林業関連行政	森林林業関連行政
支援内容	フリーペーパー発行費用等	全国区の交流会への支援等	全国集会への支援等
グループ数	3	130(330)	40
会員数	京都30 静岡12 岐阜14	3,500	430
多い世代	20代	50代～	20～40代

(2) 各団体の主な活動の比較

比較した結果（内容は表8のとおり）から、林業女子会はフリーペーパーやウェブなどでの情報発信が、全林研女性会議やLN21はイベントの実施が、主な取り組みとなっているなど、媒体は異なるが、それぞれ林業や森林、木製品などの魅力を情報として発信する活動を実施している。

表8 各団体の主な活動の比較

名称	林業女子会	全林研女性会議 (女性林研グループ)	LN21
主な活動 など	(1)女性を対象にしたフリーペーパーの発行  (2)間伐体験イベント実施  (3)インターネットなどで林業やイベント、木製品等の情報発信  他	(1)全国レベルでの活動 ・ 交流会の開催 ・ 情報誌の発行 ・ 農林漁村女性の日記念行事主催  (2)各単位グループでの活動 ・ 森林教室などの普及活動 ・ 木工教室などの体験活動 ・ 特用林産物・地元産物の加工・販売 ・ 林家に対する森林整備の働きかけ ・ 森林(竹林)整備の実施 ・ 林業技術の研究開発  他	(1)森林フォーラム・シンポジウムの開催  (2)森林の市等のイベントでの出展  (3)各種調査  (4)「山の仕事着」の開発、製品化、ファッションショー  他

(3) 各団体の国産材利用拡大に関連する取り組みの比較

比較の結果（内容は表9のとおり）から、以下の4点がいえる。

ア 林業女子会は、所在する地域の川上から川下までの縦の連携といえる。女性を対象とした取り組みに特化している。

イ 全林研女性会議は、川上側の横の連携といえる。地元の小中高校等と連携するなど、児童を対象とした普及活動に力を入れている。

ウ LN21は、全国の都道府県の女性林業技術職員の連携といえる。フォーラムやシンポジウムなど、一般の幅広い層を対象としたイベントを実施している。

エ ア～ウより、各団体は、異なる立場からそれぞれに得意な活動を実施している。

表9 各団体の国産材利用拡大に関連する取り組みの比較

名称	林業女子会	全林研女性会議	LN21
国産材普及への取り組み内容	地元の木製品のPR、林業・森林・木製品などの情報発信 等	林業・森林・木製品などの情報発信、新商品の開発 等	林業・森林・木製品などの情報発信、木材需要拡大に向けた調査 等
媒体	フリーペーパー・ブログ・ツイッター・イベント 等	会員誌・業界紙発行(特産品加工販売、イベント) 等	会員誌・HP・イベント 等
対象	都市部の女性	林業関連組織(地域住民・小中学生) 等	会員 一般の人等
範囲	ウェブ上 所在県等の都市部	全国(地元地域)	全国各地

4 各団体の連携について

(1) 連携した活動への意向について

各団体の代表に聴き取りした結果は次のとおり。

ア 林業女子会：「各団体それぞれに組織や取り組みに違いがあるが、林業や地域の活性化などの思いは重なるので、お互いの良いところを組み合わせればいい」

イ 全林研女性会議：「それぞれに組織や活動に違いがあり、良いところを組み合わせれば、もっと良いものになる」

ウ LN21：「色々な人と繋がると、発展したイベントが出来ると思う」

ア～ウより、各団体は連携して活動することに前向きであることがわかった。

(2) これまでの連携した活動について

ア 現在すでに各団体間で連絡を取り合おうとしており、林業女子会@京都と、LN21の共同でイベントの実施が計画されている。

また、過去には、全林研女性会議の情報誌などでLN21の活動が紹介されている。

イ 各県単位では、@京都、@静岡、@岐阜のそれぞれで会員のひとりがLN21に、@岐阜で会員のひとりが全林研女性会議に所属している。

さらに、@岐阜では会員の一部が、全林研女性会議の単位グループ<sup>6</sup>である女性林業グループの製材所見学に同行している。

## 5 各団体の活動基盤と財源について

全林研女性会議や LN21 は、全国的な活動の際、活動基盤となる団体や、林業や農山村振興に資することなどを目的とした森林・林業関連行政の支援を受けている。

対して、林業女子会の活動基盤は特定の団体などでなく、多様な職業の有志の集まりである。森林・林業に関する幅広い層の支持を集め、フリーペーパー発行の費用等も、応援する企業からの賛助金等から得ている。

## 第4 考察

### 1 国産材利用拡大に繋がる効果的な PR 方法について

調査の結果から、家庭において高い購買決定権を持っている女性消費者に対して、国産材の魅力を訴えることが、国産材利用拡大には効果的である。

また、建築用材としてだけでなく、食器や小物など身の回りの多様な用途で木材に触れる機会を提供することにより、木材に触れる機会が増え、国産材利用につながると考える。

さらに、生産者と消費者が繋がることや、消費者が森林・林業や情報に触れる機会を多くすることが重要で、それらにより、消費者の理解・関心が深まるものと考えられる。

### 2 連携による活動の活性化

#### (1) 連携に向けた各団体の機能

各団体が連携して活動していくことが、情報発信の面などから国産材の利用拡大に向けて有効と考え、そのために比較表を基に各団体の機能を分類した

ア 林業女子会：フリーペーパーやインターネットの活用による川下（特に都市部の女性の）側からの、川上側に対する交流窓口

イ 全林研女性会議：川上側の専門的な知識や経験を活かした地域の専門家

ウ LN21：川上・川下双方に対して森林・林業の幅広い知識を発信する機能

#### ※各団体の機能イメージ



#### (2) 各団体の連携の有効性

各団体の連携への意向に関する聴き取りから、3団体は各々別々に誕生したもので

あり、活動を全て連携させることは困難である。しかし、活動の一部であれば、連携することが可能であると考える。

各団体の代表は、積極的に連携を考えているが、距離が離れすぎていると、時間がかかったり、資金不足からコミュニケーションをとることが難しくなり、連携が困難になることから、各地域での顔の見える連携が必要と考えている。

また、地域で活動している団体が、互いに他の団体を知らない場合もある。林業女子会に参加する会員同士が、入会する前は互いの存在を知らなかったことから、同じ地域で活動する各団体が、互いの活動を知る場、繋がるキッカケを作ることで、連携が広がると考える。

### ※各団体の連携イメージ



## 3 各団体の連携と林業女子会の拡大・展開

### (1) 連携の効果

ア 各県単位での他の団体との交流・連携による活動の充実

他団体の持つ専門性の高い知識や技術を取り入れた活動により、現在活動中の3林業女子会の活動が充実し、活動参加者の増加と、他団体の活性化にも繋がると考えられる。

イ 全林研女性会議・LN21のネットワークなどを通じての連携の広がり

各県単位の連携がロールモデルとなり、全国各地の団体に情報が広がる。各地域で連携した活動が始まり、そして、広がることを期待する。

### (2) 林業女子会の新規結成促進

全林研女性会議・LN21のグループが所在するところでは、新たな林業女子会結成の動きを、同地域、同県の全林研女性会議やLN21が支えてくれるものとする。

## 4 提案1

国有林と地域の林業関連女性団体の連携を提案する

### (1) 交流会の開催について

国有林と各団体（地域によって異なる）の連携した活動に向けて、交流会を開催することを提案する。

- ア 森林管理署等が、各県の林業関連女性団体など（他のボランティア団体を含む）に交流会の開催を働きかける。
- イ 各団体にとって、同じ地域の他団体の活動は関心事であると思われるので、それぞれの立場や目的、活動事例などの情報を共有する機会として位置づける。
- ウ 森林管理署等も地域の森林を管理する組織として参加し、会場には署の会議室などを活用し、各団体に国有林の取組をPRする。
- エ 紹介された組織や取組などは、当該地域の『地域森林・林業普及活動事例集』として森林管理署等のホームページに掲載して広報する。

## (2) 連携した活動の支援について

(1) の交流会などで各団体との繋がりが出来たら、連携した取り組みを促す。

- ア 森林管理署等が、各団体に対して、各団体の垣根を越えた継続的・計画的な普及イベントの実施を促す。
- イ 森林管理署等が管理する施設（署会議室や森林事務所など）を、会議スペースとして提供し、各団体が集まりやすい環境を作る。
- ウ 国有林のフィールドを活用し、野外体験活動などの実施環境を整備する。
- エ 国有林の人材を提供し、国有林施設・フィールド提供の機能をフルに発揮する。
- オ ア～エにより、林業関連女性団体の活動を支援する。

## 5 提案2

1～4から、国産材利用拡大に向けた取り組みを提案する。

1から、国産材利用の拡大には、いくつかの課題を導き出すことができる。具体的には①女性消費者に国産材をPRすること、②家具・食器・おもちゃなど多様な用途で国産材をPRすること、③生産者と消費者が繋がる場となる、定期的なイベントを実施すること、である。また、2～4から、林業関連女性団体が連携することにより、各団体の活動のさらなる充実や活性化などが期待できる。

これらのことから、以下に一つの案を提案する。

地域の林業関連女性団体と森林管理署等が、国産材利用の拡大に向けて

**【女性限定！！森林・林業学習、木工体験ツアー】** を開催する。

- ①対象者 : 一般の女性
- ②場所 : 国有林の施設・フィールド など
- ③プログラム : 樹木・山野草・キノコ等の観察会、  
森林施業・伐採・製材等の見学会、  
除間伐・枝打ち・林分調査等の体験学習、  
木材・竹等を使った木工・工作 など
- ④その他 : 参加者同士の交流をかねて、地元の食材や山菜などを使った料理を楽しむ食事会などを行う

このイベントは、女性の参加しやすさを重視し、国有林のフィールドを使い、森林の環境や林業活動についての現場見学等をとおして、参加者の森林・林業への理解・関心を深め、自然環境と木製品のつながりを感じさせることをねらいとするものである。林業関連女性団体が中心となって実施し、2ヶ月に1回程度、各団体が持ち回りで、得意な活動を実施することで、バリエーションが豊富になると考える。

また、イベントは参加者に対してアンケートを実施し、次回以降の活動に反映させることとし、女性の視点や発想を生かして、参加者に森林・林業・木製品に関する情報を発信し、参加者（女性消費者）の声を聞く、継続的な取り組みである。

## 6 提案3

現在は林業から遠く離れている女性達が、林業や木製品の魅力に気づき、女性が林業に関わることが当たり前になり、木を使う機会が今以上に増えれば、当然、社会全体で森林・林業と関わっていくことになると思う。

特に、製品開発などについて、今回取り上げた3団体の連携により、女性の視点や、生活者の目線から、新たな木材需要を探ることが有効と考える。

さらに今後、林業関係者の垣根を越えた取り組み、例えば、女性の職場進出が進んでいる教育現場、PTAなどとの連携に取り組むことが、改めて重要であると思う。

## 7 国有林への効果

森林管理署等と地域の林業関連女性団体との連携により、以下の効果が期待できる。

- (1) 国有林が地域の団体と連携することにより、団体同士の連携に加え、当該地域の森林や林業に関する情報共有・蓄積や普及活動の内容の充実、地域の児童や都市部の女性などの対象者に応じて連続性や親和性を持った普及活動の実施が期待できる。これらのことは、数年で異動する国有林職員にとって、地域の情報を把握し、効果的な普及活動を実施する上で重要と考える。
- (2) これまで国有林をフィールドとして活用してこなかった団体が、新たに国有林の活用を検討するキッカケになり、また、国有林を活用したイベントへの参加者が、森林・林業と併せて国有林への理解・関心が深まることを期待する。

## まとめ

今回の研究では、国産材の利用拡大への効果的PRの対象と、林業関連女性団体の活動を調査・分析し、国産材利用拡大に繋がる取り組みを提案した。これにより、林業関連女性団体の活動の活性化と、国産材利用拡大や国有林に対する新たなニーズの掘り起こしに資すると思う。

今回の研究は国産材利用拡大を目的としたが、林業関連女性団体の活動は木材利用拡大のみに留まらず、「森林と人との共生」や「森林を生活の一部に」、「林業女性の交流」など、多岐にわたっており、今後のさらなる活躍を期待している。

## 謝辞

最後に、本研究を進めるにあたり、ご多忙中にもかかわらず、調査にご協力をいただきました全国林業研究グループ連絡協議会、豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・21、林業女子会@京都、林業女子会@静岡、林業女子会@岐阜の方々、また、ご指導、ご協力をいただいた皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

## 参考文献・資料等

### 1 書籍

- (1) 全国林業研究グループ連絡協議会創立 50 周年記念行事実行委員会 50 年史部会 (2009) 『全林研 50 年の歩み』 全国林業研究グループ連絡協議会
- (2) 泊 みゆき (2011) 『バイオマス白書 2011』 ウェブサイト版  
NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク

### 2 行政機関等の調査報告書、白書、統計要覧等

- (1) 林野庁 (2011) 『平成 22 年度森林・林業白書』
- (2) 農林水産省 (2010) 『森林資源の循環利用に関する意識・意向調査』

### 3 ホームページ (順不同)

- (1) 林野庁 <http://www.rinya.maff.go.jp/index.html>
- (2) 林業女子会@京都 <http://fg-kyoto.jugem.jp/>
- (3) 林業女子会@静岡 <http://forestrygirlshizuoka.eshizuoka.jp/>
- (4) 林業女子会@岐阜 <http://www.musublog.jp/blog/ringyoujosikaigifu/>
- (5) 一般社団法人 全国林業技術普及協会 <http://www.ringyou.or.jp/>
- (6) 豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・21  
<http://www.ln21.jp/index.html>
- (7) NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) <http://www.npobin.net/>
- (8) 素材のプチッチ <http://putiya.com/>

### 4 協力 (順不同)

- (1) 全国林業研究グループ連絡協議会女性会議
- (2) エンジョイフォレスト女性林研
- (3) 豊かな森林づくりのためのレディースネットワーク・21
- (4) 林業女子会@京都
- (5) 林業女子会@静岡
- (6) 林業女子会@岐阜